学びのスタイルと学習環境

東北大学附属図書館
米澤　誠

目次

1. メディア・図書館史と学びの変容

2. 学びのスタイルと学習環境

1. メディア・図書館史と学びの変容

2.1 知の集積としての図書館

・古代最大の図書館「アレクサンドリア図書館」
・紀元前3世紀のプトレマイオス朝に成立
・70万巻以上の蔵書
・パピルス巻子本

映画「アレクサンドリア」

2.2 修道院による知の継承

●知を継承する図書館
・西欧での修道院活動
・書写室と図書館
・知を継承するための写本
・自家生産型の図書館

小説「薔薇の名前」

この頃日本では、世界で最も古い印刷物「百万塔陀羅尼」が出版される

2.3 西洋での大学の成立

・1088年にボローニャ大学が設置
・ペトラルカ、ダンテ、ガリレオ-ガリレイ、コペルニクスなどが在籍
・ウンベルト・エーコも教鞭をとる

ボローニャ大学

2.4 大学図書館の設置

●書物を利用し、組織的に学問を組み立てるための大学図書館（知を再生産する図書館）
・「鎖につながれた本の図書館」
・仏・ソルボンヌ大学図書館（1289年）
・英・オックスフォード図書館（1320年）

2.5 グーテンベルクの印刷術

●多部数の同一刊本の流布
・『42行聖書』の刊行（1456年頃）
・15世紀後半までの約50年間の印刷図書は、「初期印刷本（インキュナブラ）」という

グーテンベルク聖書

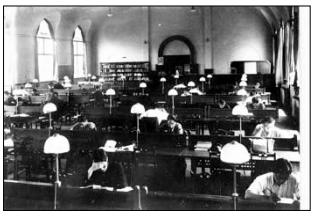
2.6 公共図書館の誕生

●印刷図書が図書館の中心となる時代
・広い壁面書架で図書を無料で公開
・多くは貴族が設置し始める
・英・ボードレイ図書館（1602年）
・仏・マザラン図書館（1647年）

・わが国の公共図書館の先駆けは仙台の「青柳文庫」（1831年）

2.7 読書（知識習得）の時代

●近代図書館の成立（日本では明治期以降）
・主に閉架式（職員が図書を出納）
・静粛な学習室



2.7 読書（知識習得）の時代

●戦後の公共図書館における開架式（接架式）と貸出重視型サービスの普及
・『市民の図書館』（1970年）
・『図書館の発見』（1973年）

●新制大学の図書館でも開架式が主流

2.8 生涯学習の時代

●生涯学習支援型の公共図書館
・『未来をつくる図書館』（2003年）
・『これからの図書館像：地域を支える情報拠点をめざして』（2006年）

●主体的な学びを重視する大学図書館
・ラーニング・コモンズの普及

2.9 知識から学びの能力へ

しかしこれからは，基礎教育に加え，方法に係わる知識，いままでは学校で教えようとさえしなかったものが必要になる。特に知識社会においては，継続学習の方法を身につけておかなければならない。内容そのものよりも継続学習の能力や意欲のほうが大切である。ポスト資本主義社会では，継続学習が欠かせない。学習の習慣が不可欠である。

（1993年）

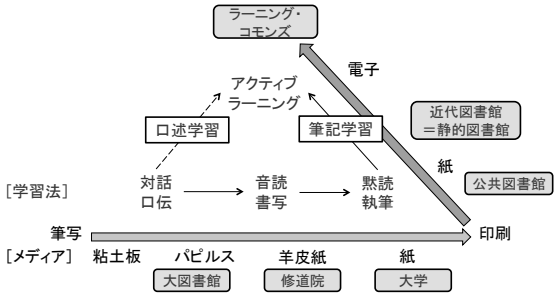
P.F.ドラッカー『ポスト資本主義社会』，ダイヤモンド社，2007

2.9 知識から学びの能力へ

知識という概念を構成していた情報の記憶と活用が切り離され，活用方法を理解することこそ知識の本質ではないかと考えられるようになるのは自然のなりゆきだと言えるでしょう。

大向一輝ほか『ウェブらしさを考える本』．丸善出版，2012

2.10 メディアと学習法の変遷



2. 学びのスタイルと学習環境

3.1 アクティブ・ラーニングとは

（アクティブ・ラーニングとは）
学生の自らの思考を促す能動的な学習

人はインターネットや各種メディアを媒介として、学校以外の場でも知識を獲得することが容易になり、学校教育だけが子ども・若者の人生形成に必要な知識伝達をおこなう場ではなくなった。（中略）

このポストモダン教育における重要な取組みがアクティブ・ラーニングである。

溝上慎一「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」．『名古屋高等教育研究』，第7号（2005）

3.1 アクティブ・ラーニングとは

【伝統的な学習観】
・学び手はもともと受動的であり、しかも有能ではないのであるから、よい教え手を探さなければならない
・知識は構成されるのではなく伝達されると考えるので、よい教師が行うべきことは、できるだけたくさんの知識を伝達することとなる

【新しい学習観】
・学習者が能動的で有能であるとすれば、お互いにやり取りする中で、知識を構成できることになる

『人はいかに学ぶか：日常的認知の世界』．中公新書，1989年

3.1 アクティブ・ラーニングとは

私たちが当たり前だと思っている一人で教科書を記憶するという学び方は、人間の長い歴史の中では、近代社会の成立と同時に発生したものであり、もともと学習は社会で行われるコミュニケーションの中に埋め込まれていたのです。

美馬のゆり・山内祐平『「未来の学び」をデザインする』, 東京大学出版会, 2005

3.1 アクティブ・ラーニングとは

3.1 アクティブ・ラーニングとは

3.1 アクティブ・ラーニングとは

	固定的な教育システム		弾力的な教育システム	
集団	固定的なクラス	固定学級	大中小学級	弾力的な集団
	一人の先生	担任制	チーム制	複数の先生
教育システム	知識を覚える	一斉授業	総合学習	学び方の学習
	受身の授業	教え込み	学習支援	主体的学習
	同一内容	教科書	多様な教材	課題学習
	一斉進度	固定時間割	弾力的構成	個別進度
	単一のメディア	黒板	ICT機器	多様なメディア

3.1 アクティブ・ラーニングとは

	固定的な教育システム		弾力的な教育システム	
教育環境	固定的な教室	固定教室	大中小教室	多様な教室
	閉じた教室の集合	教室が学習の場	学校全体が学習の場	開かれた連続的な学習空間
	単調な教室	個人机・いす	多様な家具	豊かな学習環境
地域	地域に閉じた学校	教師が教える学校	地域人材の教育参加	地域に開かれた学校
		学校のみが教育の場	地域全体が学習の場	地域と連携する学校

「日本建築学会編, 建築設計資料集成, 総合編(平成13)」を参考に作成

3.1 アクティブ・ラーニングとは

3.1 アクティブ・ラーニングとは

3.2 アクティブ・ラーニングの意義

（適切に計画された協同学習法の）最終目的は学習者一人ひとりが学習課題の理解を深めることです。結果として記憶が促進されます。加えて、以下に示す対人間関係能力やコミュニケーション能力、論理的思考能力や建設的評価能力など、現在社会が求めている幅広い能力の向上も期待できます。

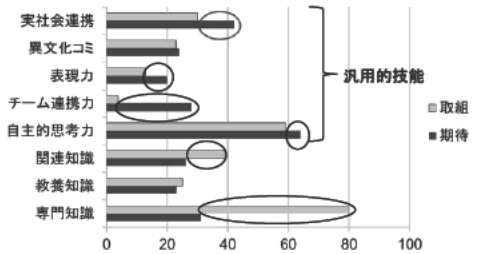
安永悟『実践・LTD話し合い学習法』、ナカニシヤ出版、2006年

3.2 アクティブ・ラーニングの意義
(1)学士力の中の汎用的技能

各専攻分野を通じて培う学士力
1.知識・理解
2.汎用的技能
(1)コミュニケーション・スキル
(2)数量的スキル
(3)情報リテラシー
(4)論理的思考力
(5)問題解決力

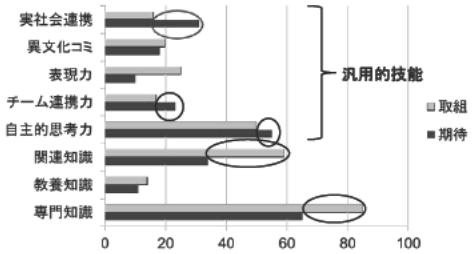
中央教育審議会大学分科会資料『学士課程教育の構築に向けた答申』(2008)から

3.2 アクティブ・ラーニングの意義
(2)企業の期待と大学の取組（文系）



・2003年、日本経団連調査より抜粋作成

3.2 アクティブ・ラーニングの意義
(3)企業の期待と大学の取組（理系）

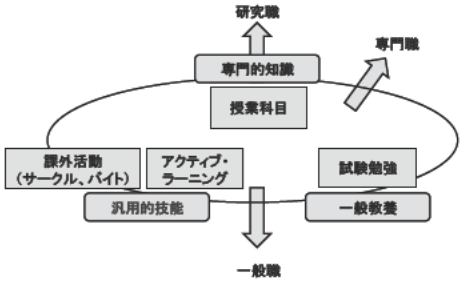


3.2 アクティブ・ラーニングの意義
(4)企業採用基準での重視ポイント

採用全体		大手企業の理工系採用	
順位	重視するポイント	順位	重視するポイント
1	人柄（人となり）	1	コミュニケーション力
2	コミュニケーション力	2	人柄
3	ポテンシャル（入社後の可能性）	汎用的技能	ンシャル
4	思考力	4	思考力
5	熱意（志望度、入社意思・意欲）	5	専門知識
6	専門知識	6	熱意

・(株)学情の調査（2012年1～2月）による

3.2 アクティブ・ラーニングの意義
(5)より広範な学習の視点



3.2 アクティブ・ラーニングの意義

国公立および私立大学ともに「学生が自分の考えや研究を発表する機会がある」授業を受ける機会があった場合に、「分析や問題解決能力」が増加したと回答している学生の割合が70%（国公立79.2%、私立70.1%）を超える。［機会がない場合は、国公立65.4%、私立54.0%。「批判的思考力」、「コミュニケーション力」、「プレゼン力」、「専門分野や学科の知識の獲得」も同様の傾向］

山田礼子、継続調査からみえてくる学生の現状、『現代の高等教育』、2012年8-9号）

3.3 主体的な学びと図書館

（学修支援整備環境の整備についての課題）
主体的な学修の確立の観点から、学生の学修を支える環境を更に整備する必要があることである。学長・学部長アンケートでは、「きめ細かな指導をサポートするスタッフが不足」しているという課題意識が強い。その他、専任教員数の充実、主体的な学修を支える図書館の充実や開館時間の延長、学生による協働学修の場や学生寮等キャンパス環境の整備、奨学金の充実など、様々な意見や要望が寄せられた。(p.18)

『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）』、

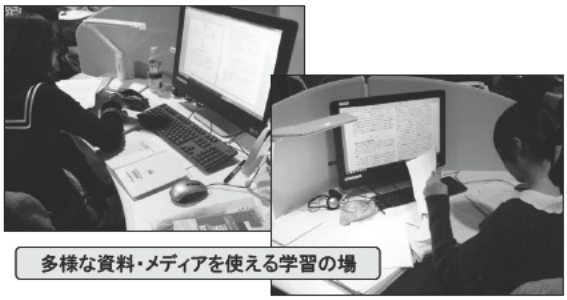
3.3 主体的な学びと図書館

東北大学の学生食堂などで（2011年）

3.3 主体的な学びと図書館

東北大学でのラーニング・コモンズ計画

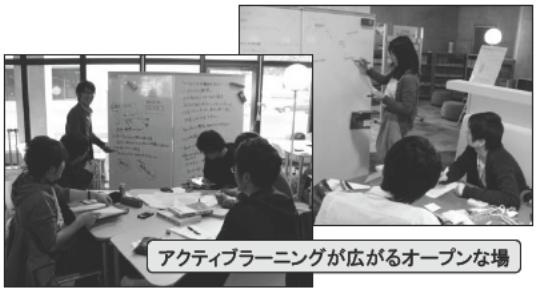
3.3 主体的な学びと図書館



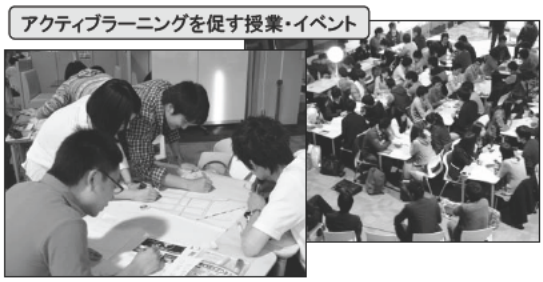
多様な資料・メディアを使える学習の場

3.3 主体的な学びと図書館

3.3 主体的な学びと図書館



3.3 主体的な学びと図書館



参考文献

(1) イアン・F・マクニーリー，ライザ・ウルヴァートン．知はいかにして「再発明」されたか．日経BP社，2010年

(2) 中山茂．パラダイムと科学革命の歴史（講談社学術文庫）．講談社，2013年

(3) 美馬のゆり，山内祐平．未来の学びをデザインする．東京大学出版会，2005年

(4) 稲垣佳世子，波多野誼余夫．人はいかに学ぶか（中公新書）．中央公論新社，1989年